

エスユー通信



社長挨拶

皆様、毎日の作業お疲れ様です。

今年も残すところあとわずかとなりました。今年はどうな年だったでしょうか。

会社では、大きな交通事故や労働災害があり、良い年だったとは言い難いです。

しかしながら、交通事故はあんなに大きな事故にも関わらず被害者の方が一命を取り留めたことや、労災でもヘルメットや安全装備をしていたおかげで怪我で済んだことは、良かったことだと思います。

来年は改めて、事故を無くすことを決意して臨みたいと思います。

さて、年が明けますと寒さも一層厳しさを増します。また、コロナも多く出回ることでしょう。

仕事をしていて気を付けなければならないことが、気温差・気圧差です。脱ぎ着をこまめに行いましょう。繰り返になりますが、人間は $\pm 5^{\circ}\text{C}$ 気温差があると、情緒不安定になり、知らない間に注意力不足になってしまいます。

この寒暖差や気圧差が近年の気象では大きくなりつつあります。という事は、全員が注意力不足になり、事故を起こしてしまう可能性があるという事です。

睡眠も同様で、情緒不安定になると睡眠不足に陥りがちです。

今年もあと少しですが、運転中の疲れがでたら車を停止し、作業中の疲れが見えたらすぐに作業をやめて、休憩・仮眠を 15 分から 30 分とり、リフレッシュしてから運転・作業をしてください。

最後に、今年一年の皆様の努力とご協力に感謝致します。また、来年もよろしくお願い申し上げます。

代表取締役 清水 英次

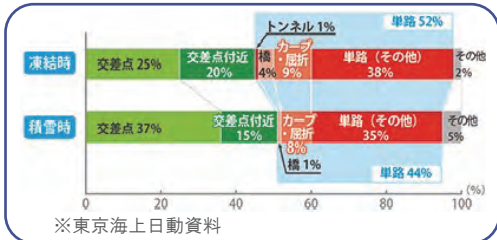
品質通信

冬道の安全走行

12月も終わりが近づき、冷え込みの厳しい日が続いています。気象庁発表によると今冬は、特に年明けから例年より寒くなる予報です。冬道の走行は、雪が降らない地域でも路面の凍結に注意を払う必要があります。今月は、凍結時や積雪時に起きたスリップ事故の内容を通して、冬道の安全走行についてみてみましょう。

スリップ事故はどこで起きる？

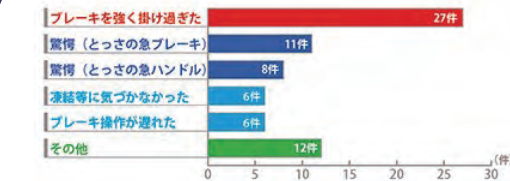
凍結時の交通事故がどこで起きているかをみると、「単路」のいわゆる直線道路での事故の割合が高くなっています。積雪時と比較すると、「**交差点付近**」や「**トンネル**」、「**橋**」、「**カーブ**」での発生割合が増えます。



かもしれない運転の徹底を！

スリップ事故が起きる原因は？

事故時の人的要因をみると、「ブレーキを強く掛け過ぎた」が多く、「驚愕」して急ブレーキや急ハンドルの操作をしたケースが続きます。また、「凍結等に気づかなかつた」という回答もみられました。



① 車間距離をとり、ゆっくりした速度

路面の凍結に備えて走行する場合は、いつもより長めに車間距離をとり、ゆっくりした速度で走行しましょう。また、**急発進・急ハンドル・急ブレーキ**を避ける必要があります。凍結や積雪の道路を走り始めるときは、ブレーキから足を離れた時に車が動き始める「クリープ現象」を利用して、走り始めましょう。停止するときは、エンジンブレーキを利用して普段より早めに減速し始め、軽くブレーキを踏んだだけで停止できるようにしましょう。

② カーブではゆっくり操作

路面の凍結・積雪があるカーブは、ハンドル操作が効かなくなる可能性があります。カーブを曲がるときは、ハンドルをゆっくりと操作しましょう。カーブから出るときは、アクセルを踏み込まずゆっくりと加速させましょう。

③ 橋の上・トンネルの出入口付近は、速度を落とす

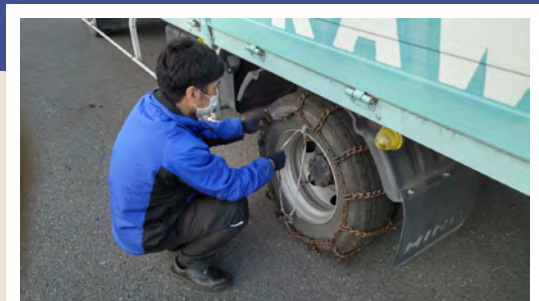
橋の上やトンネルの出入口付近は風を遮るものがないので、路面が凍結しやすくなります。乾燥した路面からのそのままの速度で走行するとスリップする危険性があります。「凍結しているかもしれない」と意識して、速度を落としハンドルをしっかりと握って走行しましょう。

④ 日暮れから翌朝までは特に注意

夜間は、濡れた路面の水が凍り始めるため、スリップしやすく、また、凍結した箇所が濡れたように見えるので、凍結に気づき辛く注意が必要です。朝になると、凍結した路面の表面の水が溶け出し、車が水の上をすべる状態になる危険性があります。日暮れから翌朝まで特に注意して走行しましょう。

タイヤチェーン講習

本格的な雪シーズンを前に新人ドライバーの方へチェーン講習を行いました。近年は雪があまり降らないエリアでも突然の大雪に見舞われるケースが増加しています。この様なエリアの人達こそ、降雪したときの影響は大きいので早めの冬支度をして急な天候変化にも対応できるようにしましょう♪



お知らせ